

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100417		
法人名	合資会社 中藤		
事業所名	グループホーム 青い鳥 ②		
所在地	備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居拒否しない、皆様困って玄関をたたかれる、それに対して我々は、それに対して応じた。散歩、特に力を入れています、暇があれば行く事、ドライブ、季節の行事を行う。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者、管理者、職員共に情報を共有し職員の質向上に心がけている。運営推進委員会議も行政、地域、区長、民生委員を含め協力関係が築き上げられている。備前市内グループホームの職員資質向上に向けての研修計画がなされている。防災対策等なされておりますが、今後も引き続き努力して下さい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の延長、その人らしく、自分らしく今迄自宅で使用していた寝具、食器、衣類等同じ物を使って頂き、その人のスペースに合わせた介護を行う。	その人らしく、自分らしく、家庭の延長であるように日々楽しみを持って過ごせる、笑い、明るさ、笑顔の生活を工夫しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる奉仕作業等に参加し、施設で行うクリスマス会などの行事でちらし寿司を配布し近所の方々に参加して頂いています。	地域からの声かけで敬老会、ちらし寿司作り、清掃その他、積極的に参加している。	これからも地域の一員として地域活動やその他の役割を担って交流してください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の奉仕作業、施設行事等、地域の方との交流もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い施設内の現状、家族の方の意見等地域の方との情報交換を行っています。	年を重ねる毎に情報交換も増え、軌道に乗る行政、会議出席者の意見がいただける。	定期的に実施されることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には運営推進会議に必ず参加して頂いており情報交換できています。	市の担当者に、運営推進会議に参加していただき近況報告等又その他の、情報を伝え、よりよい協力関係を築くよう努めている。	介護保険課より提言の有ったグループホーム間の職員交流研修をし、資質向上に努めて下さい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制をしないケアは当然のことで理解していますが現状では玄関の施錠をやむを得ずしています。利用者の状態を観察しスタッフで話し合った結果、利用者を保護するためにもこのような施錠する事となりました。	安全を優先するが抑制もしない為危険が多くなるその選択に迫られカンファレンス実施施錠する事となった。その他の処置により状況が安定し施錠しなくて良い状況となった。	努力された結果状況が改善された今後も此の経験をもとに次に繋いで下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護上の問題点や困った事を話し合い事業者、管理者に相談しご家族にも相談して、出来るだけはやく解決している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約等についてはほとんど家族の方々は入所の事だけ考えておられます。ここ何年かはゆっくりと事例をだして説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方にも参加して頂き、意見、要望を聞き信頼されているような運営ができるように努力しています。	月1回の便りを送り、なんでも話してもらえるように努めそれらを運営に反映させている入居者や家族が意見や要望を事業所内だけでなく、外部者にも表す機会を設け、意見にも耳を傾け運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全職員で行うミーティングで意見交換を行っています。	申し送りノートを作成し、全職員(パート含む)にたいし必要事項の伝達、意見、を交換し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の為、働きやすい様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修など参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市のグループホーム、市と共に勉強会もち回りで始めようと昨年決まりこれから取り組みます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族と面接、困っている事、要望、本人の現状を把握して職員に伝達し環境が変わるが、安心して生活して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で要望を聴収し1カ月ケアプランを作成し、家族に説明、1カ月後に再度見直しプランを作成する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での介護困難があり、入所を希望されているので本人が安心して生活できるよう介護している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事やお茶を飲み、散歩やカラオケ、レクリエーション等、利用者と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の生活状態を手紙に書いて、家族にお知らせし面会等で本人に家族の絆を作ってもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人、孫での面会時は一緒にお茶を飲んで頂いて時間の許す範囲で面談して頂いてる。	面会時声掛けを大事にし今までの関係を継続していただけるよう、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して消極的な方にはいい点などを見つけて声を掛け自信をつけてもらったり、利用者同士の間に入り橋渡し役をして楽しみをわかちあえるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られても、時々面会に行ったり、家族と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が出来る事、出来ない事、危険な事を情報収集して計画を立てて、職員全員で対応している。	日々の関わりの中で声掛けしながら一人ひとりの要望や意見を一番に考えて、意思疎通の困難な方には家族や関係者により情報を得て、計画をたてそれにより全職員が対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーや家族、本人より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族より詳しく情報を収集し、本人とも入所前の面談や入所後4~5日生活状態を観察してプランを立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点が見つかる则ち随時モニタリングを行い利用者により良いケアサービスをできるようにしています。	よりよく暮らす為に本人、家族の意見を聞き現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個別記録に記入し常にスタッフ全てが把握し問題点を話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が起きた時点で、事業者、職員、家族と話し合い、本人に合った対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近くのお寺へ毎日、散歩出来る人や、車イス、シルバーカー利用して、外気にれひり、夏祭り、クリスマス会に地域の人と触れ合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族に主に行っているが、家族の希望で施設より受診している、施設とかかりつけ医とは密接に連絡している。	受診時かかりつけ医には、家族の方に連れて行って貰っている。家族の希望により施設より協力病院、かかりつけ医に受診し家族へは受診の結果を連絡。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内で看護職経験者に、異常発生時は相談し、又看護職経験者もかかりつけ医に連絡報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院すると洗濯物を毎日スタッフが病院に取りに行き、その時情報を聴いている、入退院時も家族よりの報告を聴きカルテに記入している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期になった時は医師、家族の意向を聴いて希望に沿って対応している。	医師、家族の意向を聴き希望に添った対応をしている。現在入居者には終末期支援者はいないようでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一般状態の観察や、バイタルチェックの早朝初見に務め異変時は救急車の対応をお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度防災訓練を行い	年1回防災訓練を実施しているが地元の方の協力体制がまだ出来ていないようでした。	消防署の協力を得て日夜の避難訓練、地域住民の参加、協力を得ながら訓練計画を作成しマニュアルも作成してください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者とおだやかに接する様に心がけています。	本人の気持ちを大切に、さりげないケアに心がけ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを引き出せるようなコミュニケーションがとれるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間不眠の人は起床を遅らせたり夜遅くTVを見たい人は見て頂いたり 食事形態もその人に合った食事を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯ができる方にはおまかせしております。外出時には衣類の準備、アドバイスをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、野菜を切ったり、味付け、洗い物など利用者と一緒に楽しみながら行っています。	利用者のニーズを反映しながら献立、盛りつけ、片付けを、職員と利用者が、同じテーブルを囲んで 楽しい雰囲気を作るように心掛けている。	栄養管理の面は、専門職の方に相談・検討し、記録チェック表を生かされ、一人ひとりに合った栄養バランス食に方向づけられたらいいかがですか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた量、そしゃくや嚥下状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き、うがいをし、義歯の場合は外してきれいに洗っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿、便意の無い方には排尿、排便間隔や時間を把握し時間誘導等の援助を行っています。	排泄チェック表により早急にパターンを把握し出来るだけトイレでの排泄に向けさりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動等を行っても難しい場合は便秘薬を処方されている方はそれでコントロールさせてもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日など病院が休みの日は急変なども考えられるので行っていませんがそれ以外は毎日個々の残存能力を活用して入浴して頂いています。	一人ひとりの気持ちや習慣を大切にし又残存機能を生かし、ゆっくりと湯舟に浸って入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整、ベッド周辺の環境整備、転落防止など快適で安全に休息、安眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の症状の変化の確認を努めています。毎日の介護記録に今内服している処方を添付していつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持って頂き、利用者の意向や希望を聞くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望されれば支援しています。桜見学や紅葉見学など季節を感じて頂くための外出なども企画して行っています。	一人ひとりの希望に添って散歩に出かけたり、又家族と墓参り、買物、泊り等、季節を感じて貰う為施設の車でドライブしたり苺狩りも施設・家族で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいますが、ほとんどの方は預かっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知が進んでいる方や、家族の希望で連絡出来ている人もいるが、比較的穏やかで、家族の許可のある方とは連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よい空間になっていると思います。季節に応じたの装飾も入居者様と手作りして飾ったりもしています。	快適な温度設定がなされており、季節感のある花、行事毎の飾り、入園者の写真、手作りの飾りも雰囲気よく飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個室であり、リビングのソファでは、自分の希望の場所に座って頂いたり話し合う人とはイスで話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し居心地よく、安全に過ごせるようにしています。	使い慣れた寝具、タンス、ベット、たたみ等で本人が心地良く過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	TVの前でのソファの設置やボール遊び時や手足のリハビリを行うときの椅子の位置など、その時その時に工夫している。		